

# 名作文庫通信



2023年 冬号



## 冬季特集 太宰治をめぐって

自殺未遂をくりかえしながらも、流行作家となるが、玉川上水に愛人と入水心中をし、苦悩の生涯を終える。現在も、熱烈なファンが多い太宰治をめぐる本を集めました。



### 【萩窪風土記】

井伏鱒二/著 新潮文庫/刊

井伏鱒二は、太宰の先輩作家であり、世話役でもあり、不行跡をくりかえす太宰にふりまわされることも多かった。初代夫人と離婚した太宰の再婚相手を探し、結婚式の媒酌人もつとめた。本書には、太宰がいた時代の萩窪、天沼の風物、作家たちが交友する様が、ありありと描かれている。太宰が初めて井伏の家を訪ねたとき、ちょうど、釣りにでかけようとしていたところで、いっしょに、善福寺川へ釣りにいったが、なにも釣れなかったそうだ。



### 【中原中也詩集】

中原中也/著 吉田熙生/編 新潮文庫/刊

太宰は、25歳のとき、檀一雄、山岸外史らと、同人誌『青い花』を創刊した。中原中也も同人となっていた。檀一雄の『小説太宰治』（岩波現代文庫）によれば、同人仲間で酒をのんでいるとき、酒癖の悪い中原が、太宰に、「何だ、おめえは。青鯖が空に浮かんだような顔をしやがって。全体、おめえは、何の花が好きだい？」などとからみ、困らせた。酔った中原に、真夜中、家までおしかけられたりと、さんざんな目に遭った太宰だが、詩人として、中原のことは尊敬していたようだ。『青い花』は創刊号のみで消滅した。

### 「名作文庫」とは？

下井草図書館では文学、哲学、思想、歴史などの名著名作を文庫版・新書版で集め、「名作文庫」としてご紹介しています。



## 今月の1冊 心の旅を描く物語



### 【走れメロス】

太宰治/著 新潮文庫/刊

『富岳百景』『駆け込み訴え』など、太宰中期の作品が収録されている。『東京八景』には、天沼に住んでいた時代のことも描かれている。20代の太宰は、荒廃した生活を送り、追われるように、転居をくりかえし、天沼界限だけで5か所を転々としている。初代夫人と離婚し、心機一転、再婚し、創作に打ち込もうとする決意が『富岳百景』に描かれている。作中、茶屋の娘さんの純真さが、なんとも愛らしい。

## 新着本 新しく買った本のご紹介



### 【源氏物語 1】

紫式部/著 角田光代/訳 河出文庫/刊

約千年前に紫式部によって書かれた「源氏物語」を、小説としての魅力を余すことなく現代に甦らせた新訳。1は、若き光源氏と姫君たちとの恋と許されぬ藤壺への思慕を描く。「桐壺」から「末摘花」までを収録。(TRC MARKより)



### 【小右記】

藤原実資/著 倉本一宏/編 角川ソフィア文庫/刊

平安時代の公家で、故実に通じ「賢人右府」と称賛された藤原実資の日記。63年に及ぶ膨大な記事から、男性貴族によって宮廷で執り行なわれた政務や儀式など、初心者にも面白い内容を精選。原文・訓読文・現代語訳を収録する。(TRC MARKより)

## 編集後記

下井草図書館玄関を出て左へ。最初の辻で右へ折れ、まっすぐ荻窪方面へ向かう。コインパーキングがある交差点を過ぎ、次の四つ辻を左に曲がると、50mほど先に本天沼稻荷神社がある。その東側に、太宰が住んでいたことがある。当時は東大の学生で、通学に不便という理由で、数か月ほどで、荻窪駅近くに引っ越したそうだが、太宰ゆかりの地が、下井草図書館の近くにあることがわかったときは、とびはねてしまうくらいうれしかった。

発行: 杉並区立下井草図書館  
杉並区下井草3-26-5

